

麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 麻生鳥のさえずり公園

第 36 号 2012 年 9 月 30 日発行 発行 ; 麻生多摩美の森の会

発行責任者 ; 間野 洋 編集者 ; 木村 信夫

森の豊かさを伝えるイベント...秋から冬の行事案内 副会長 中谷 一郎

今年の夏は、大雨による災害や猛暑による水不足で、人びとの暮らしや樹木や作物に被害があり大変でした。麻生多摩美の森では、広場の栗や畑の里芋が水不足を克服し、生育を回復しています。

当会は、次の時代を創る子どもたちとの絆を重要課題と考えて活動しています。樹木に手を触れ、木々の発する香りや音などを体験することは苦手科目の克服にもつながるそうですが、自然との関わりを通じて何か好きなことを見つけ、将来の目標にまでもつながっていただけるように・・・そんな願いをもって、収穫の秋の恵みも活かして、これからの活動に取り組んでいきます。

以下、盛り沢山の秋から冬に向けての行事を紹介いたします。

1. 麻生プレーパークへの協力

10月20日(土)子どもたちが自分の意志でのびのびと1日遊びます。

2. 西生田小学校5年生「森で環境体験学習」 10月23日(火)、24日(水)各日午前中、サポート各日14人程度。

<学習内容>

1 **暮らしに役立つ植物たち** 里山の草木がどれほど私たちの生活に活かされているかを、自然観察指導員高橋英さんおよび会員のガイドで巡回しながら学びます。

2 **樹木の2酸化炭素吸着量の測定** 森・緑が環境の改善にどのように役立っているかを、樹木の幹周を測定し、その値から算出

することを通じて学習します。

3. 第12回植樹祭&収穫祭

11月18日(日)9:30~13:00

私たち麻生区市民健康の森、最大のイベントです。「森の豊かさ、森づくりを次世代につなぐ」をコンセプトに植樹、植物観察、ここで育てた里芋の豚汁、森の音楽会などで1日楽しみます。

4. 西生田小学校3年生「多摩美の森を知ろう」 11月21日(水)午前中

<学習内容>

1 **森の観察** 春・夏のとくと秋とでは、樹木・昆虫・生き物などがどう違うか観察。

2 **「タネの旅立ち」** 植物のタネはどのように運ばれるか、様々な知恵を学びます。

3 **ネイチャーゲーム** 16のマス目に描かれた物を、森を回わり全部見つければビンゴ!

5. カリタス女子中学校「森の体験学習」 12月17日(月)、18日(火)

下草刈りの体験学習を予定。

6. 花と緑の交流会(川崎市公園緑地協会主催) 1月26日(土)高津市民館

パネル展示、柳生博氏の講演。

7. 里山フォーラム in 麻生 里地里山ナチュラリスト入門講座 part (9月~3月全11回)に参加。2012年のテーマ「ともに生きる いのちをつむぐ 身近な水と緑」。

以上、安全に十分注意して、実り多い活動になるよう実施していきたく思います。ぜひご参加ください。

多摩美の森にやってきた！ ラオス人形劇団 “チェオボン” の公演

(公財)現代人形劇センター 鈴木 愛子

“チェオボン”は、ラオス人のラタナコーンと、日本人のあさぬまちずこが組んだユニット名です。チェオボンとは、水牛の刻んだ皮が入った辛味ペースト。日本人にとっての味噌のような存在で、ラオス人にとって、なくてはならない食材です。

そんな素朴なユニット名のチェオボンは、作品も実に素朴。自然に落ちている木の実や流木、日常で使われるカゴなど、それらのモノと身体とを使って表現していきます。新しい、けれど、どこか懐かしくてあたたかい、そんな人形劇です。

ラタナコーンが来日したのは、7月23日。日本は、亜熱帯の国ラオスの人もびっくりの猛暑日が続いていました。多摩美の森での催しは野外での1時間半。どうなることかと不安でいっぱいでした。しかし、催し当日の8月8日は酷暑が一転、嘘のように涼しい、森の風が心地よい日となりました。

まずはミニ公演。多摩美の森に、ラオスの民族音楽とともに、不思議なチェオボンの森が広がりました。その木陰から現れたのは、なんだかへんてこりんな生き物。その一挙一動に子どもたちは興味津々。笑い声をあげ、時には触ってみたい、いたずらしてみたい。その子どもたちの素直な反応が劇の一部となり、公演を盛り上げてくれました。

次は、多摩美の森にある葉っぱや木の実などを使って物体づくりに挑戦。物体は決して



目鼻口がついた人形でなくてかまいません。自然の中にあるモノを使って、自由に、感じたままに作ってもらいました。よく見ると、童心に帰って楽しむ大人の方々の方々の姿・・・。

完成した作品は実に様々で個性的。多摩美の森に、沢山の不思議な命が誕生しました。

麻生多摩美の森の会、川崎・多摩美の山トラストの会の皆様には、準備から当日まで、お世話になり、ありがとうございました。自然を将来の子どもたちに残したいと、活動されている姿には大変刺激を受けました。今回の催しが、森とともに子どもたちの心に少しでも残ってもらえればうれしく思います。

最高の星空を楽しむ

オーロラ天文台 小川 誠治

8月4日(土)、川崎市麻生区市民健康の森を会場に行われた「夏の星空を楽しむつどい」は、昼間の土砂降りがウソのように雨が上がり、夜になって快晴となりました。東京新聞の記事をご覧になり「天気が悪いが中止なのか」という問合せも何件ありました。そして日が暮れる頃には、暗い夜空に透明度抜群の夏の星たちが顔を覗かせました。

まずお見せした土星の環。お子様が喜んだのはむろんですが、大人からは「初めて土星を見たけど、本当に環があるのですね」とか、「これはスゴイ」との感嘆の声。シーイング(空の揺らぎ)も最高クラスで、画像の揺れがまったくなく、本体の縞模様もしっかり見え、土星の月(衛星)も1個見えていました。これだけ見え方の良い土星は珍しいです。

そして、次は夏の星の色の違いを楽しんでいただきました。白くキラキラ光り、真珠星とも呼ばれるおとめ座の1等星スピカ、オレンジ色に輝く1等星うしかい座のアルクトールス、赤いさそり座の1等星アンタレス、青白く光ること座の1等星ベガ、おおぐま座北斗七星の二重星であるミザール、はくちょう座の二重星アルビレオなどを次々にお見せしました。「ベガは本当にダイヤモンドみたい」



とは、もちろん大人の女性の方たちです。星の色は表面の温度によって決まります。温度が低いほど赤っぽく、逆に高いほど青白い色をしています。

アルビレオは、ルビーのような青色の 3.2 等星とサファイアのようなオレンジ色の 5.4 等星の二つの星が接近して見え、このような星を二重星と呼んでいます。アルビレオは全天でも一番美しい二重星として知られ、別名「天上の宝石」とも呼ばれています。ミザールは 2.0 等星で、すぐ近くに 4.0 等星のアルコルがあり、当日ご案内したところ、目の良い方は肉眼で確認していただきました。目の検査器具などない大昔のアラビアでは、兵士の視力検査にミザールが使われていました。

大人の方で、星の名前をしっかりメモしている方もおられ、ボランティア冥利に尽きます。ギャラリーの中には、近くでカブト虫をとってきたばかりという家族も参加しました。また、家族連れは 6 組以上おられ、約 35 人のお客様が星を楽しまれました。

2006 年から始まったこの企画ですが、夏の観測会としては過去最高の星空の見え方で、天頂近くは 4 等星近くまで見え、大都会としては信じられないような最高の星空でした。

麻生多摩美の森の会の間野会長さん、川崎・多摩美の山トラストの会の岡村代表さん、今回もご協力と激励のご挨拶、本当にありがとうございました。また、多摩美地区の各町会さんには広報に全面的なご協力をいただきました。誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

森づくりのこれから

森づくり分科会 井上 正樹

本紙 35 号の中で、24 年度の活動として竹林(孟宗竹)の新設「自前の孟宗竹林を西斜面の一部に新設するべく計画をスタートする」としましたが、その後勝田政吾会員の提案により森づくり分科会にて検討し、孟宗竹は余りにも繁殖力が強く現在の生態系を大幅に損なう恐れがあるので、竹林の新設は行わないとの結論に至りました。心配をお掛けしたこと、お詫びします。

次に西斜面の整備について報告します。一昨年から始めた枯木の伐採、カントリーヘッジの設置も大方終了しました。ただ、細かく見るとまだ必要箇所が残っているので、引き続き実施していきたいと思います。

次に北斜面の整備について報告します。ここは平成 13 年から 3 年にわたり植樹し、その根付いた木と、元からあった木が樹高も伸びて、太陽の当たらない部分も生じてきたので、間引きする樹木を決め、計画的に間伐、下草刈りをしていきたいと思います。

次に南側、畑に向かう斜面について報告します。昨年より放置されていた枯木、枯れ草の片づけ・移動を行いました。さらに斜面の雑草刈りを行い、かながわトラストみどり財団より配布予定の苗木(ヤマボウシ・ヤマツツジ)を植樹する予定です。



カントリーヘッジづくり

私の部屋 モロッコの迷宮をさ迷う

中村 浩

朝7時頃に宿を出て、マラケシュ空港から空路カサブランカへ、そこから電車を乗り継いでフェズ駅に15時頃に着いた。駅から、インターネットからプリントアウトした地図を見せてタクシーに乗った。運転手は解ったような、解らないような頼りない反応であった。ここだと降ろされたのは、高い塀と建物に囲まれた人気のない小さな広場。運転手が指差した門を潜った途端、いきなり名前を呼ばれてビックリした。声の主は宿の親仁で、そろそろ着くのではと思っていた、とのことであった。

宿では中庭にミントティーとモロッコのお菓子が用意されており、親仁の長話を聞かされるはめになった。親仁曰く、いいレストランを紹介するから、伝統的モロッコ料理を食べるべきだ、そして、いいガイドを紹介するからいっしょに観る、と。色々反論したが、結局は宿の親仁に従うことになった。

18時頃迎えに来たレストラン店主の車に乗ること約20分。着いたのは団地の裏の空き地で、人気もまばらで寂しいところ。そこから両側に壁が迫る狭い路を歩くこと数分、レストランがあった。席は40~50人分あるが、今宵の客は我々2人だけ。料理は、モロッカンサラダ(野菜を香辛料で煮た物)、パスティラ(鳩肉を使ったミートパイ)、ラムのタジン、モロッコビール、モロッコワインをオーダーした。宿の親仁自慢の通り、どれも美味しかった。食後に店主が家中を見せてくれた。家は数百年前に建てたもので、数年前にリフォームしたとのことで、豪華な装飾が壁・天井に施されていた。料金はモロッコの物価水準からすると高かったが、美味しい料理と家を見学できたこと、往復とも車での送迎を考えると良い経験ができた。

翌朝はフェズへ出かけた。ガイドといっしょなので迷うことなく観ることができた。ガイドの説明はとても解りやすく、パン焼屋(パン生地は各家庭で作り、窯で焼いてもらう)、昔の商隊宿など、自分では見過ごしてしまう様な所まで見ることができた。一步脇道に入ったら地元の人助けがない限り出るのは難しいことも実感できた。

今後の活動予定 副会長 中谷 一郎

毎年秋から冬にかけては行事が盛り沢山ですが、最大のイベントは「森の豊かさ、森づくりを次世代につなぐ」をテーマに、実りの秋と音楽を味わえる第12回植樹祭&収穫祭です。また、秋から冬への森の変化を観察できる季節、ご都合のつく日にご参加ください。

今後の活動予定は下記の通りです。

- 10月 6日(土) 畑の整備、草刈り、清掃
- 10月20日(土) 麻生プレーパークへの協力
- 10月21日(日) 里芋収穫、草刈り、清掃
- 10月23日(火)、24日(水) 西生田小学校5年生、環境学習
- 11月 3日(土) 植樹祭&収穫祭準備、清掃
- 11月18日(日) 第12回植樹祭&収穫祭
- 11月21日(水) 西生田小学校3年生、秋の多摩美の森の観察
- 12月16日(日) 草刈り、翌日の準備、清掃
- 12月17日(月)、18日(火) カリタス女子中学校生の森の体験学習
- 12月29日(土) 臨時 作業納め、清掃予定
- 1月 5日(土) 初出作業(予定)
- 1月20日(日) 畑手入れ、草刈り、清掃
- 1月26日(土) 花と緑の交流会(高津市民館)パネル展示、講演:柳生博氏
この間補助作業日は第2、第4水曜日です。

会員募集中です 一度見学にお出で下さい。里山の楽しさを親子で味わってください。年会費1,000円。

麻生区のホームページで、市民健康の森を紹介、本紙のバックナンバーも見られます。
<http://www.city.kawasaki.jp/73/73tisin/miryoku/sanka/mori.htm>

皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

<問合せ・連絡先>

間野 洋 044-966-7233

mano-h@jcom.home.ne.jp

木村信夫 044-954-7855

kimura-yatsu@nifty.com